

議会だより



かみかわの

No. **6**

1995.4.25

発行 上富良野町議会

編集 議会広報特別委員会



農業振興で期待される
育苗センター
(キャベツの種まき作業から)

主な記事

97億円の積極予算を可決 ②ページ

運動公園の条例を可決 ⑤ページ

防災対策などを一般質問 5議員が登壇 ⑧～⑫ページ

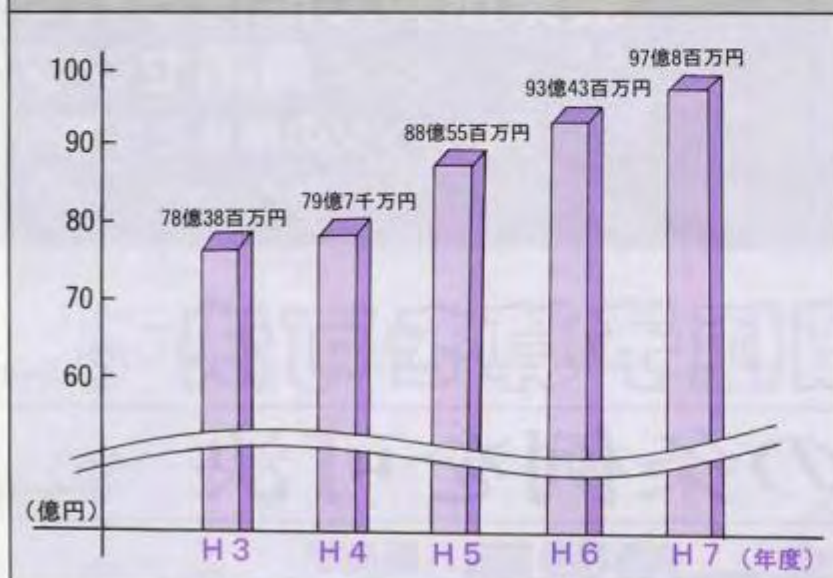


▲ 3月8日に新年度の町政執行方針が述べられました

新年度予算が決まるまでの経過

3月8日 本会議	町行政の執行方針（町長・教育長） 各会計予算の概要説明（町担当課長） 執行方針に対する質疑（4議員） 予算特別委員会の設置（議長以外の19議員）
3月14～17日 予算特別委員会	予算の質疑・討論・表決 審査意見のとりまとめ（9項目）
3月22日 本会議	予算特別委員会審査報告（海江田委員長） 新年度の各会計予算採決

過去5ヶ年の一般会計当初予算



新年度
一般会計

97億の積極予算を可決

健全財政など9項目の意見を付ける

平成7年度の一般会計は前年比、実質8・4%の伸びとなりました。予算の総額は一般会計97億800万円と他会計45億円の142億円となりました。

どう使う町予算

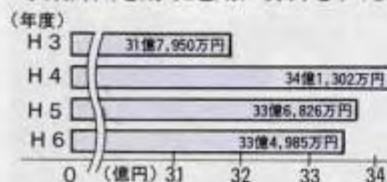
9項目の 意見を付す

財政

補助金の削減 と健全財政

国の厳しい財政状況から、町の予算編成は十分注意を要するものである。

事業計画と財政運用に努力されたい。

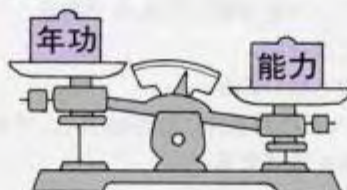


▲伸びない国からの地方交付税

人事

年功序列から 能力重視へ

個々の能力を重視した人材登用を図り職員研修を再考し、人事の活性化に努力されたい。



広域行政

ゴミとし尿は 広域で処理を

一般廃棄物とし尿処理施設は広域行政を主眼において取組み、早期に町の方角性を打ち出すよう配慮されたい。



福祉

医療・保健 福祉の連携

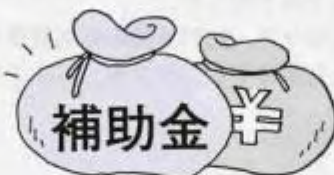
高齢化社会が目前に迫り医療・保健福祉の連携強化に一層の努力を図り民生活導入も検討しソフト充実をされたい。



補助団体

補助効果と 職員の再雇用

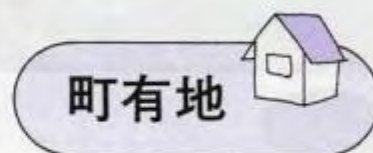
各団体に対する補助金が増加する中でその効果が上がるよう配慮し、職員の再雇用の基準と指導にあたられたい。



遊休施設

有効利用に 配慮せよ！

町所有の遊休施設を見直し、組織機構の改善等と合わせて有効に活用するよう配慮されたい。



入札

透明性と 公平性の確保

工事入札に当たっては、一般競争入札も視野に入れ、一層の透明性、公平性が確保されるよう検討されたい。



国保会計

保健予防と 税負担の軽減

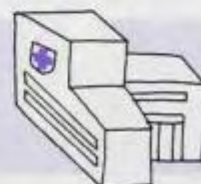
医療費の増加により国民健康保険税の負担が大きいため、保健予防の推進と税負担の軽減に努められたい。



病院会計

根本的改革 の導入を

法律等の改正で病院の運営は厳しさを増しているため、根本的改革を執行面に取り入れ更に努力を重ねられたい。



健全財政などの町政執行方針に4議員が質疑

どう進める町行政！



本年度実施設計に入る西保育所の完成予想

米沢議員

- Q、農産物輸入自由化と新農業政策とは矛盾があるのではないかと
A、ウルグアイ・ラウンド国際協定の中で農家の自立がきわめて重要である。農地の保全と経営を守るための農業振興対策が必要である。
- Q、入院給食費の患者負担廃止と、国保税引下げはしないのか
A、入院給食費患者負担は在宅福祉とのバランスを考慮したものである。国保税は制度からも下げる周囲の環境にはない。
- Q、自衛隊の増員、増隊に反対の意思表示はしないのか
A、増員、増隊は国の計画によるもので、国内平和の維持に町が協力し、その連絡協調のために、町の組織に基地対策室を設置する。
- Q、住民の要望に対する町長の行政推進の姿勢はどのように
A、不要不急事業の整理と計画に基づいた緊急度の高い事業に力点を置く。



▲昨年実施した全議員による作況調査



これからの在宅福祉に向けて

平田議員

- Q、町の予算を先行き不透明の中で積極予算とした理由は
A、ゴミ最終処分場と十勝岳観光開発、西保育所などの事業を進めるために積極予算となった。
- Q、在宅ケア・訪問看護の体制整備を急がないのか
A、人員を増やし、ソフト、ハードの連携強化を進める。

中川議員

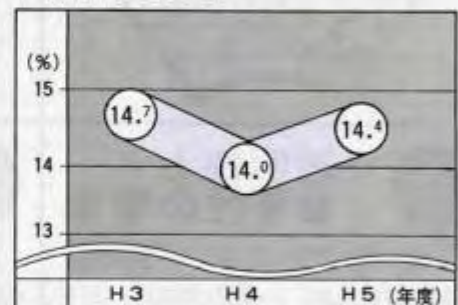
- Q、公共施設の建設で起債（借金）が増え、健全財政に逆行しないか
A、財政見通しは心配されるが、危険ラインは超えていない。
- Q、町の企画課に設置する基地対策室と自衛隊との緊密なる連携強化とは
A、農業・商業・自衛隊の3本柱の中で、自衛隊の部門設置は町長就任当初からの構想である。



ラベンダー・ハイツへの慰問

倉本議員

- Q、青少年対策を町から教育委員会への体制移行とその組織はどのように
A、いじめを含めた生徒指導と青少年健全育成のための全町体制をとる。役場の青少年問題相談員を教育委員会へ配置換して5月に新組織を発足する。
- Q、保健・医療・福祉の緊密なる連携はどのように
A、在宅介護の推進のための活動拠点として施設整備を検討する。



▲町の財政状況を示す公債費負担率

条例

運動公園条例に改正

昨年、丘町に運動公園広場が完成したので、従来の野球場、テニスコートなどの屋外体育施設設置管理条例の名称を運動公園条例へ改正する条例を審議し原案を可決しました。

新たに、ゲートボール場、多目的広場、ジョギングコースが出来上がりました。



丘町に完成した運動公園

里仁線 バス経路 を変更

里仁線のバス経路を改正する条例を審議し原案を可決しました。従来は深山峠と美馬牛の間は国道を往復していましたが、利用者の便を図るために、復路が町道北31号を経由することになりました。



経路が変更された里仁線

大集会室の 使用料設定

町社会教育総合センター条例の使用料の一部を改正する条例を可決しました。改正されたのは、新たにコミュニティセンター1階大集会室の使用料を定めたものです。

使用料は昼間が1時間800円で夜間が千円です。



大集会室のある社教センター

公的年金の 証明無料に

国民年金や農業者年金などの公的年金の証明手数料を平成7年4月から無料にする条例を改正しました。



職員の分限 条例を改正

町職員の失職事由の特例を規定した条例を可決しました。改正の内容は職員が分限処分に至ったとき、刑の執行が猶予されたものについて、情状によりその職を失わないとすることができるとのことです。

職員の定数 条例を改正

町長の事務職員の数を「160人」を「162人」に、教育委員会事務職員の数を「29人」を「28人」に改正する条例を可決しました。



保健婦2名を増員

管理職手当支給 条例を改正

町職員の管理職手当を支給する職員として、新たに「室長」を加える改正条例を可決しました。

他の議決

基金の支消 を可決

町の積立て基金の一部を支消して平成7年度にそれぞれの目的に使うことを可決しました。

▼公共施設整備基金 2億7千万円

▼財政町政基金 1億円

▼十勝岳開発基金 3千200万円

3辺地総合 計画を議決

財政上の特別措置を受けるために町が定めた3地区の辺地の公共施設総合計画を議決しました。

町道路線を 認定

新たに6路線の町道を認定可決しました。

- ▼北町2丁目1条通り
 - ▼北町2丁目1番通り
 - ▼北町2丁目2番通り
 - ▼北23号富原道路(富原)
 - ▼北23号道路(島津)
 - ▼旧金子道路(里仁)
- ※(一)内は、主要経過地

補正予算

財源と使い道

■平成6年度3月補正予算の状況

(単位：千円)

会計名	補正額	補正後の額
一 般	1億0,604万7	104億2,005万6
国 保	2,473万3	9億3,092万0
簡 易 水 道	978万1	4,503万4
老 人 保 健	44万9	12億1,737万8
公 共 下 水 道	629万4	8億1,231万9

■一般会計補正予算のあらまし

歳入（財源）の内訳	補正額(千円)
町税（町民などからの税金）	1,230万0
分担金、負担金（町民の負担するお金）	△ 141万6
国や道からの負担金、補助金、委託金	5,502万8
財産収入	5,751万7
諸収入（預金利子、貸付金元利収入）	△ 7,635万6
町債（町の借金）	5,960万0
その他の収入	△ 62万6
歳入合計	1億0,604万7

歳出（主な使い道）の内訳	補正額(千円)
基金への積立金	1億7,458万9
財政調整基金	9,732万4
公共施設基金	2,494万0
減債基金	1,537万3
農業振興基金	3,276万5
十勝岳観光開発基金	18万5
科学技術基金	21万6
国際交流基金	379万1
農道整備費	1億6,068万5
富原1地区団体営農道	5,421万5
江幌更生地区団体営農道	6,897万0
東中4地区道営農道	3,750万0
知事・道議会議員選挙費	276万6
各種事業等の完了等による精査	△ 2億3,199万3
歳出合計	1億0,604万7



冬期間工事で進む農道整備

▼ 東中4地区（道営事業）
・路盤改良1千200m

▼ 江幌更生地区
・路盤改良700m
・舗装400m

▼ 富原1地区
・路盤改良450m
・舗装400m

国の農業対策関連として平成7年度にかけて工事に着手するものです。

農道整備の
費用を増額
1億6千68万円

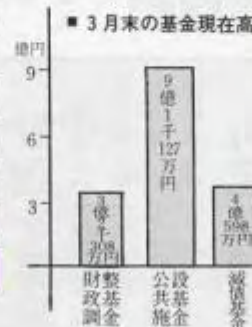
▼ 旭日道路改良工事
・改良延長100m

▼ 山花道路特殊改良工事
・改良延長76m

▼ 北27号西道路改良工事
・改良延長257m

国の景気対策を受けて、町道整備事業の早期完成を図るために、債務負担行為の議決を行ったもので、2か年で工事を進めます。

町道整備の
債務負担
1億円



町のこれからの事業の財源を確保するための財政調整基金への積立やそれぞれの目的のための各種基金を増額して積立てる費用です。

財政調整基金
などを増額
1億7千458万円

平成5年度

総額132億円の決算を認定

■平成5年度各会計決算額

(万円)

会計別	収入	支出
一 般	106億3,563	105億6,090
国 保	9億9,363	9億2,797
簡 易 水 道	3,474	3,429
老 人 保 健	11億7,166	11億5,525
公 共 下 水 道	5億6,503	5億3,243
合 計	134億0,069	132億1,084

8項目の審査意見を付けて認定



平成5年度の各会計の決算は平成6年12月定例議会設置の決算特別委員会で平成7年1月10、11日に審査し、次の意見を付けて3月7日の定例議会で認定しました。

審議資料

決算審査に際し主要施策に関する行財政の成果説明書の提出がないことから、成果が不明確であることは適格性を欠くものである。以後改善を図り、適正に対処するよう検討されたい。

基金支消

公共施設整備基金には「ふるさと創生資金」が積立てられており、基金の支消に当たっては、当資金の主旨を体して、将来町のシンボルとなるような夢のある事業の施策に充当すべきである。

企業誘致

企業に対する、協力、援助措置等の便宜供与についての条項には拡大解釈の危険性があるので、執行については慎重に対処されたい。

時間外勤務

職員の時間外勤務が増加の傾向にあり、事務効率の向上のためにも、適正な人事配置に努めるべきである。

工事入札

工事入札については、最近の諸情勢を勘案し、一般競争入札についても検討すべきである。

経費節減

燃料及び物品等の購入に当たっては、地場産業の育成と最近の価格動向を適格に見極め適正な価格で調達を図るべきである。物品等は、予算の集中管理等をして経費の節減を図られたい。

病院繰出金

平成5年度の町立病院の繰出金は約1億5千800万円と多額になっているが、長期に多額の繰出しは財政の硬直化をまねき、財政運用が困難になると思われるので極力減額するよう努力すべきである。

公共下水道

受益者負担金の未収金が増加傾向にある。住民に対して趣旨の徹底を図り、未収金の解消に努力されたい。

人権擁護委員

岩井史雄さんを適任と答申



岩井 史雄さん

固定資産評価委員

高士清一さんを再任同意



高士 清一さん

固定資産評価委員の構成

氏 名	
大 道 俊 造	造 雄
小 瀬 秀 一	清 一
高 士 清 一	

要望意見を取り上げました

町農民連盟から

出された「酪農・畜産振興の基本政策に関する要望」を議会の意見書として内閣総理大臣、大蔵大臣、農林水産大臣へ送付しました。





上富良野駐とん地の記念行事に整列する自衛隊員



吉岡議員

Q 自衛隊との連携は A 一層の連携を保つ

Q 吹上保養センターの経営は A 町100%出資の第3セクター

町と自衛隊との連携と協力について、阪神大震災の教訓を踏まえ自衛隊に対する町の姿勢は

問 この度の神戸市の自衛隊に対する要請が遅く、初動体制の遅れを招き人命喪失の大惨事にもつながったとの後日の反省で大きくクローズアップされている。

ここに特に思うことは常日頃の自衛隊と町との協力と訓練の必要性ではないかと思えます。町長の平成7年度町政執行方針で自衛隊に対する対応に今一步の不満を述べる議員があったが町長の考えは

災害想定訓練と官民一体の協調について

問 毎年3月に防災訓練を実施しているが、これを十勝岳山岳地帯を網羅した訓練として計画してはどうか。それによる十勝岳ヘリポート基地を使用して平常時から訓練を実施し、緊急時に備えることが必要と思われるが町長の考えは

町長 (一括して答弁) 自治体と自衛隊間の信頼関係あつてこそ緊急時の即時体制がとれるので、町は活火山の十勝岳を抱え、地元駐屯地とより一層の連携を保つていくことが第一と思つて

いる。この度、基地対策室を企画課内に設け基地の町として災害想定訓練はもとよりイベント等諸行事にも大所高所より官民一体の協調体制がとれるものと確信している。

ヘリポート基地にしても部隊の演習時の中で利用してもらふことも一考出来ないか模索していく。

十勝岳地域総合開発基本構想の全体計画は

問 町の財政規模に見合う計画であるのか。夢のみを大きく追う計画であつてはならず、周到な青写真を提出し議会とも十分協議されることが肝要かと思われるがどうか。

吹上温泉保養センターの建設計画について、凌雲

閣、カミホロ荘、バーデンかみふらのとの協調と発展を配慮した動きがなされているのか

問 現在無料の旧吹上温泉跡の露天風呂が大にぎわいで名所となっているのはよいが、この上に新設の露天風呂、クワハウス浴場と宿泊管理棟が建設されると民営の圧迫につながるのいかと危惧される。町長においてはどうか共存共栄の道があるのかどうか。また、白銀荘の老朽化と今後の対策をどう考えているか。

経営については第三セクター方式というが経営はいかに難しいかとは国民宿舎で実証済みである。一般よりの公募か特定の企業との提携なのか町の構想を伺いたい。

町長 十勝岳総合開発計画については基本計画を基調に議会をはじめ町民各位の理解で事業推進を図っていききたい。

吹上地区の保養センター



本年度から着手する保養センター



過去の大爆発によって形成された旧噴火口



岡和田議員

Q 十勝岳旧噴火口対策は

A 状況調査を継続する

Q 緑肥作付事業は

A 農家自身で進めるべき

十勝岳防災対策について
問 大正15年と昭和37年、昭和63年の爆発対策として砂防ダムや防災訓練が実施されているが毎回同じ場所の爆発とは限らない。

突然の阪神大震災や雲仙普賢岳の二百年ぶりの大噴火は、「災害は忘れた頃にやってくる」という諺が生かされていないと思われる。

十勝岳の旧噴火口が爆発した場合の避難対策はどのようにするのか。

町長 昭和63年の十勝岳噴火は火砕流を伴う爆発的噴火を多発しましたが、幸い小規模であったため大正15年の泥流のような破壊的泥流を免れました。しかし、町民に多くの教訓を与えてくれました。

御質問の旧噴火口（安政火口）については、平成3年に火山専門家が調査した結果、近い将来溶岩の噴出する確立は低いということから、町として何年か一回は定期的に火山学者へ調

査を依頼し、実情把握に努めていく。

町づくり対策について

問 町長は就任当初から、町民参加の町づくりを提唱しているが今後どのように取り組んでいくのか伺いたい。

公職者や団体役員の話は事あるごとに聞いていると思うが、一般町民の青年層、中堅層、老人層など、特に婦人の方々の話を聞く場を考えて少しでも町民の声を行政に反映出来るよう努めてはどうか。

町長 私は常に町づくりの主役は住民であると考えています。

今後住民会長会議を通じて開催をお願いし、行政懇談会のほか、青少年、御婦人、お年寄りの方々の声を聞き、身近な要望も予測されるので関係課長職も出席させ、町づくりへのアイディア等を求めて参ります。

農業振興施策について

問 政府は昨年、農畜産物自由化合意による国内対策

大綱総事業費7兆2千億円を示した。しかし、国際競争に対抗出来るようになるには難しいと新聞紙上で報じている。

いづれにしてもこれまでになかった農業新時代を迎えたのです。

このようなとき、我町の基幹産業である農業をいかにして活性化し振興するのか伺います。

また、2年連続の異常気象の中でも土づくりに努力している農家は良い収穫を上げているのになぜ、町は緑肥対策を止めたのかとの声も多く聞かれます。

やれば良い事はわかっていても取組みづらいから奨励策が必要なのであります。

堆肥増産や緑肥作付を含め、農協と協力し、前回の緑肥作付制度を大幅に改革検討し、土づくり対策を強力に進めてはどうか、町長の考えを伺います。

町長 平成6年に町と農協

で農業振興計画を策定し、基本目標として土づくり対策をはじめとする7項目を掲げています。

この中で堆肥設置や心土破砕事業は今後も必要であると考えていますが、緑肥作付事業については、農業者自らの手により実施していく事が望ましいと考えています。

有機質肥料の増産は農業振興のうえで必要と考えていますので緑肥作付事業に代る事業を関係機関とも検討していく。



土づくりは農業の基本



十勝岳の噴火を想定した当町の防災訓練



倉本議員

Q 今後の防災対策は A 検討を加える

Q「町長への手紙」の公表は A 町広報に掲載する

防災対策をどのように町民参加の町づくりは

自衛隊との連携は

問 阪神大震災を教訓に、自衛隊との非常時の連携強化を図るために、防災会議の委員に自衛隊の参加を要請する自治体や、地域防災計画に自衛隊の役割を明示するなど、新たに協力を要請していると言う道の方針等が報じられているが、本町の現在の体制と今後の対応策を伺いたい。

町長 現在町の防災会議開催時には特別参加をいただき、専門的見地からの意見を賜っており、昭和63年の災害時以降、防災対策本部と駐屯地の専用通信回線を設け、有事の際の即時支援が受けられる体制を敷いて来たが、現在の自衛隊法の枠組みにおいては、人命救助や災害復旧などの出動目的が明らかで、かつ知事の要請がなければ出動出来ないことになっている。

現在政府においてもその見直しを検討されているので、活火山を抱える本町としても、連携体制の見直しを図られるよう、機会を通じ関係機関に要請して参りたい。

防災訓練は

問 従来の訓練は十勝岳噴火による泥流災害を想定し、限られた区域のみで実施されているが、より広範囲な災害を視野に入れ、町民全体が常に意識や知識をもって、有事に対応出来る体制づくりが必要ではないか。

町長 町の地域防災計画は昭和61年に制定され防災の諸対策に努めて来たところである。

毎年防災訓練の実施により町民の意識高揚に努めているが、今一度行政として工夫や見直しの必要があると考えており、ハザードマップの新規配布、避難者カードの再交付等々、また緊急時の対応について、自分の命は自分で守るを原点に、

防災意識を高める啓蒙方法についても検討を加えて参りたい。

「町長への手紙」の状況は

問 町長が提唱している「町民参加の町づくり」の一環として、昨年9月に町広報を通して「町長への手紙」を実施されたが、これまでの状況と町としての対応を伺いたい。また手紙の論旨によつては関心を持たれる町民も多いと考えられるので、その情報を公開し住民自治の高揚を図つてはどうか。

町長 町内と札幌かみふらの会の会員を合わせて42名の方から手紙をいただき、内容としてはリサイクルや受益者負担の可能性を含めた廃棄物処理の推進・高齢者や障害を持つ方の福祉の充実・図書館などの文化施設の充実、また観光面での発展等の意見が寄せられた。提言の一部については新年度予算に盛り込んでいる



公表された町長への手紙

が、要望事項については財政との兼ね合いをみながら、引き続き検討して参りたい。なお次号の広報誌に掲載すると共に、直接回答もして行く所存である。

再質問 防災訓練の意識と参加率の低下が心配されないか、また非常食の保管の実態はどのように

町長 防災意識の向上を検討するとともに、住民の避難と災害時の関係組織がどう動くのかという目的をもつて対処したい。町の非常食は少なくとも500食は保管する。



会議が進められている開基100人委員会



佐藤 議員

Q 開基100年のスケジュールは A 本年度に明らかに

Q 保健センターの建設は A 当分は現施設を活用

開基100年記念事業のスケジュールは

問 上富良野町開基100年記念を2年後にひかえて、その取り組みの状況と、スケジュールを出来るだけ早く町民に周知徹底することが町民参加の趣旨から必要である。

次の項目について、内容を明らかにして欲しい。

- ① 100人委員会の取り組み状況
 - ② テーマの設定
 - ③ 事業基金の設定
 - ④ 記念施設の位置づけ
 - ⑤ イベント
 - ⑥ 記念出版等
- 町長 100人委員会では、4つの部会を設け、開基100年にふさわしい、意義ある記念事業計画とするための様々な角度から論議が交され、具体的かつ、建設的な提言も数多くいただいている。
- スケジュール的には、当初の予定より幾分遅れているが、引き続き100人委員会を重ね、意見調整を図り

本年の早い時期に計画案の骨子をまとめる。

記念施設、イベント、出版物等の事業内容は本年度中に明らかにしていく。

また、開基100年が2年後に迫っている中で、全町的な盛り上がりとなるように町民の皆さんに事業内容を明らかにするとともに、シンボルマーク、スローガンの募集を町広報を通して積極的に展開していく。

基金については、記念事業計画の概要を見極めた上で創設する。

老人保健、福祉計画に伴う機構の改善等の考えは

問 本町の保健、福祉の取りくみの現状は、比較的恵まれており、喜ばしいところであるが、今後益々、高齢化社会の到来、それに伴う関係法令の改正など、多種多様な保健福祉面のサービスが要求される場所であるが、本町としての当面のとりくみを示されたい。

町長 急速に進展する人口

構造の高齢化に対応するため、町では老人保健、福祉計画を策定しているが、これらの高齢者等に対するサービスの総合体制であるが、その本質は、地域住民のニーズにどのようにサービスを提供していくかであります。

町内の病院、特別養護老人ホーム、緊急通報システム、デイサービス、ホームヘルプサービス、老人訪問看護指導、在宅サービス等を有機的に結びつけた地域における、包括的なケアシステムの構築を、今後において老人保健、福祉計画に基づいて、年次的に逐次整備を検討する。

これらの具体的実施にあたって、組織機構の再編については先進実施町村の実態を踏まえ、近年中に実施にむけ、方向づけをしたい。

この度の地域保健対策のための関係法律整備後の諸対策であるが、地域の特性を活かし、町民ニーズに対応した快適で安心できる保

健と福祉の町づくりのために相談からサービスの提供に至る体系的なシステムの整備が必要になるので、保健と福祉の核となる、町保健センターの整備を考えている。

当分の間は、既設の各施設を最大限、有効活用し、積極的な福祉サービスの展開に努めて参りたい。

再質問 ①100年事業の計画が1年以上遅れているのではないかと。テーマ設定、意識の高揚を早急に考えるべきである。

②保健福祉計画の体制強化に努めると言っているが、機構改正の形が見えない。現実には合う取り組みをすべきと思うがどうか。

町長 ①100年事業はそう遅れてはいない。部会を設置し意見をまとめている。

助役 ②町行革部会で論議していくが、保健婦や在宅ケアサービスとして訪問看護の体制など平成7年度中に整備したい。



消防力強化には職員の充足が必要



米沢議員

Q 消防職員を充足せよ！ A 増員したい

Q 平和都市宣言をせよ！ A 宣言は考えてない

防災対策について

問 阪神大震災では、震災対策の初動の遅れが問題になったが、町の消防職員の充足率は、全国七〇・六％・全道七二・五％よりも低下していることは重大だと考えるが、町民はどのように考えているか。また消防職員の充足率をいつまで引き上げるのか。地震対策についても全面的な見直しが必要と考えるが、考え方にについて伺いたい。

町長 災害等の発生時のマニュアルは出来ているが、救援隊が来るまで自力でどうするのかは欠落しているのではない。災害時の初動体制を迅速に行うためにも、救援の専門職である消防職員の充足率をいつまで引き上げるのかはつきりすべきだが町の考えはどうか。

町長 消防力の強化、消防職員の充足率の向上は、地域住民の生命、身体を守るためにも大事であり増員して行きたい。

また、活断層分布状況等

問 地方自治の精神とは「住民が主人公」の立場をあらゆる分野に貫くことにあるが、今後町の諸計画の立案する段階から、住民の意見を取り入れる場所の保障と工夫を行うべきであるが、考え方にについて伺いたい。

町長 町民の声が町政に反映できるように努力していく。

えはもっていない。

問 交通安全対策について、島津基線道路には、歩道がないために、人と車が背中合わせで通行しなければなら

町長 歩道の設置が必要と考えるので整備計画の中で検討する。

行使する働きかけを、町の農業再生のためにも、関係機関に働きかけるべきではないか。町の考え方にについて伺いたい。

町長 本町は、国の対策大綱の事業内容を実施に向けて取り組みたい。

再質問 ①消防職員の充足率をいつ、どこまで上げるのか。

②住民参加の合理的運営の

力点はどこにあるのか。

③非核平和宣言をしないのはなぜか。

④農業自給率低下の対策は、

助役 ①消防職員の充足率は、財政が許す限り高めた

い。新年度中に増加の根拠づけをし、消防議会に協議したい。

町長 ②住民参加の主人公は住民であり、生の声を聞き生活環境を改善したい。

③平和憲法を否定するものではない。形でなく日常生活の中で現状取り組みを行っていく。

④農業振興計画で取り組む。

3月定例会では、一般の町民の方々が傍聴しました。
日頃、議会活動を見る機会があまりない中で、代表して感想を紹介します。

議会傍聴 あれこれ

わたしもひと言・・・

議員の一層の レベルアップを！

私は行政は町民の最大のサービス機関と考えて3月議会に一度は傍聴することになっている。

限られた財源で最大の効果を上げるには企業も行政も同じで、世論を集約して適切に対応するのが政治なので、議会はその縮図と言ってもよい。

議場の真摯なマナーは好感だが少し低ムードも感じる。政治不信とは思いたくないが傍聴者が少なく、情報公開やPRが必要のようだ。議員の質問があえて構造改革を含む政治改革を具体的に検討提案してはどうか。

基幹産業に対する論議は毎回あつてしかるべきで自主財源創出の母と認識してほしい。ガット・ウルグアイラウンドで産業の危機管理能力が問われます。

自助努力の町民に社会変動を予測した議員の一層のレベルアップを望みたい。



高橋博男

里仁第一共和

若者も町政に 参加を！

私は、小学生の頃に社会見学で議場に入った記憶がありますが傍聴というのは初めての経験です。

ほぼ半日の議会でしたが、案件の数はかなりなものと思いました。しかし、実際の審議のやりとりが少なかったのはやや期待はずれでした。

私が所属している商工会青年部では、今年度から町の予算などの行政システムを良く学ぼうと勉強会を開催しております。その一環として議会の傍聴は大切な位置付けと考えております。

これからは、我々若者も色々な面から町政に参加するという意識を持ちながら、議会との距離を少しでも縮めるようにして行けたらと思います。



鎌田孝徳

大町1丁目

独自の農業施策 に期待する

ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意で国民の主食である米が輸入されることになり、農産物の国内保護政策も外国からの攻勢には思うようには行かなくなりました。

転作面積の配分も減ったり増えたりの繰り返しで国の政策が猫の眼行政となっています。

安全で安心して食べられる食料を国内で生産したくても、貿易問題や価格格差の壁が今まで以上に重くのしかかってきました。

こうした厳しい状況の中で北海道の上富良野としての特色を活かした独自の農業の方向性を行政や関係機関で打ち出してほしいものと思っています。

私は年1回は必ず議会を傍聴することになっています。

今回の議会の傍聴が少なかったのも残念です。
(農業 53歳)



▲4日間審議された3月定例会

■6月定例会は6月中旬開会予定

議会は公開です。あなたも議会を傍聴してみませんか。

委員会 レポート

教育民生

土幌町 ケアハウスを 視察

4月7日に教育民生委員会では、土幌町の軽費老人ホーム（ケアハウス）しほろ愛風苑を視察しました。

高齢化社会を向かえ、多様化する福祉ニーズに 대응するために平成4年1月に建設され、60歳以上の自炊が出来ない程度の人30人が入所しています。

当町もケアハウスを平成9年に完成を予定し、現在その準備を進めています。



説明に聞きいる委員

総務

住民参加と広報

総務委員会では、所管事務調査として、住民参加と広報について、議会の閉会中に調査を行っています。

内容は、住民が行政に参加する方法や行政が住民の声を聞き施策に反映する方法などです。



地区の住民懇談会

広報

発行から1年の 議会広報

昨年からの発行した議会広報も今回で第6号となりました。

住民と議会とのかけはしとなるよう編集に努力してきました。

今後も出来るだけ多くの町民に親しまれる広報に努めます。



自治功勞

議員表彰

議会議員の永年在職者の表彰として、本町の5議員が全国町村議会議長会から表彰されました。

○30年以上 小野議長
○15年以上 海江田副議長
山崎・高尾・徳島の各議員



海江田副議長



小野議長



徳島議員



高尾議員



山崎議員

事務局職員の異動



藤崎友香さん

4月1日の人事により議事事務局職員に異動がありました。

▽藤崎友香 新採用
▽床鍋のぞみ 町部局
町民課年金係へ

編集後記

期待の平成7年も明けて見ると、M七・二の都市型「阪神大震災」が発生、死者5千500人を数え、3月本町第1回定例議会でも防災論議が真剣に取り上げられました。

東京都心の地下鉄でも3月20日朝猛毒のサリンにより、死者12人、重体73人、負傷者5千500人、という恐るべき犯罪が発生し、全国民をテレビに釘付にしました。更に警視庁は機動隊員2千500人を動員新興宗教オウム教を捜索の結果恐るべき大量の化学薬品を押収し驚かされました。

3月30日には警察庁長官が狙撃されるという異状事態に発展し、この3ヶ月の短期間の変動に無気味な恐怖を町民皆さんも抱いた事でしょう。

この慌しい中、町議会も平成7年度一般会計97億円を厳しい論議の中、審議可決し新年度を迎える事になり、これからの無事息災を町民皆さんと共に祈りたいものです。

(編集委員 青柳輝義)

..... 本紙に対するご意見・ご感想をお気軽にお寄せください.....